

ブログ「中東と石油」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

ブログ「From OCIN in the Cloud」:<https://aehakazuya.blogspot.com/>

ホームページ OCIN INITIATIVE:<http://ocininitiative.maeda1.jp/>

ホームページ MY LIBRARY:<http://mylibrary.maeda1.jp/>

マイライブラリーNo.:

(注)本稿は 2019 年月日にブログ「中東と石油」及び「OCIN in the Cloud」に掲載したものです。

2019.10.20

指導力が問われるサウジ新石油相アブドラジズ王子

1. サウジ新エネルギー相に初の王族



サウジアラビアのエネルギー相が Al-Falih からアブドラジズ・ビン・サルマン王子(以下 AbS)に交替した¹。新大臣は 59 歳(1960 年生)、サルマン国王の 4 男でありムハンマド皇太子(以下 MbS)の異母兄である(「[サルマン国王家々系図](#)」参照)。1960 年のタリキ石油・鉱物資源相に始まる石油大臣は、その後のヤマニ、ナーゼル、ナイミそして先代の Falih に至るまでいずれもテクノクラートであり、王族大臣は初めてのことである。このため

世間では新大臣に王族を任命したことに驚いている。

AbS 新大臣は 1982 年に石油鉱物資源大学(KFUPM)を卒業、1987 年にナーゼル石油相(当時)付きとしてキャリアをスタートして以来一貫して石油省に勤務しているベテランのオイルマンである。その間には日本との合弁事業であるアラビア石油の取締役、あるいは OPEC 本部勤務の経験もあり、2015 年以来石油省副大臣として Falih 前大臣をサポートしてきた(ちなみに王子と前大臣は KFUPM の同期生)。王子の 40 年近くにわたる経験は申し分なく、また内外にわたる石油業界の人脈は、彼の今後の活躍に疑問を挟む余地はなさそうである。

但しメディアで報じられる AbS の言動は時折 emotional(感情的)あるいは pedantic(学術的)であり、大臣としての資質を不安視させるところがある。さらに義弟でありながら今やサウジアラビアの実質的な独裁者である MbS との関係も微妙である。また石油問題は今や単なる経済問題にとどまらず国際的な政治問題と深く関連している。同じ OPEC 加盟国であるイラン、あるいは非 OPEC の雄ロシアとの OPEC+(プラス)協調問題に加え、今や世界最大の産油・ガス国であり、サウジにとって不可欠の盟友である米国との関係など、アブドラジズ新エネルギー相は複雑な外交力学に立ち向かわなければならない。王子にそのような指導力があるか否か一抹の不安がぬぐえない。

2. 王子の性格は？

実質的な新大臣デビューとなった 9 月のアブダビ石油会議におけるアブドラジズ王子の風貌や言動

を見る限り彼は見るからに育ちの良さを示す温厚な紳士である。会議に参加した OPEC の Barkind 事務局長も王子は経験と知識に富み決して感情的にならないと高く評価している²。一方、任命の翌日 Al Falih 前エネルギー相と並んで記者会見を行ったときは、感極まったのか声を詰まらせるという感情に流される emotional な一面も見せている³。



Arab News の記者は、王子が大学以来の数十年に及ぶ Al Falih との交友関係を思い出したためと好意的に報じているが、少しうがった見方をすればナイミ及び Al-Falih のアラムコ出身のテクノクラートに後塵を拝し、さらには父サルマンの寵愛を受けた 30 代の異母弟ムハンマドが皇太子に上り詰めたことに対して、アブドルアジズは自分の出世が遅れ、今や異母弟の下に立つという現状に感情が高ぶったと見えなくもない。

また石油政策を論じる彼の談話にはしばしば西洋文学あるいは話題のドラマから拝借した pedantic(学術的)な表現が見られる。それは世界のエネルギー情勢を左右するサウジアラビアの石油相に必ずしもふさわしいとは思えないのである。例えば上記の記者会見で、王子は英国の人気ドラマ”Upstairs, Downstairs”にひっかけて、自分は階下の台所で国と国王のために働きたい、と答えている。またある時はサウジアラビアが 2030 年にエネルギーの輸入国になるのでは、との質問に、自分はラ・ラ・ランドのシナリオを論じるほど暇では無い、と答え、さらに最近のドローン攻撃に対する設備復旧見直しに対して「アラムコは不死鳥のごとくよみがえる」と述べている⁴。

もちろん王子がその言葉通り着実に石油政策を実現するならば問題ないが、都合よく運ばなかった場合に相変わらず pedantic な表現で体をかわしていくならば、国内外の彼の信用が失われることが危惧されるのである。

3. 今後懸念されるいくつかの問題

アブドルアジズ王子のエネルギー相としての力量はこれからの活躍次第であるが、彼の前には (1)異母弟ムハンマド皇太子との関係、(2)OPEC 及びロシアを含めたいわゆる OPEC+(プラス)の舵取り、そして (3)石油と政治が絡みあう国際政治力学の中での米国、ロシアあるいはイランとの駆け引き、と言う三つの大きな問題が立ちはだかっている。



アブドルアジズとムハンマドは異母兄弟であり 30 歳近い年齢差がある。異母兄弟の関係は微妙でありサウド家でも第五代ファハド国王の子息の間でお家騒動があり、また北朝鮮の金正恩体制では陰惨な暗殺事件が発生していることで分かるように問題のないほうが珍しいほどである。AbS と MbS の関係がいずれ破綻することはほぼ間違いないであろう。父親のサルマン国王はそのような事態を恐れて MbS に権力を集中さ

2 / 4

せようとしている。これまでのエネルギー・鉱物資源省をエネルギー省に改編し、AbS の管掌を石油に限定し、さらにこれまで一体運営してきたアラムコをエネルギー省から切り離れた。

サルマンとしては MbS に次期王位を継がせ、さらには MbS の息子へと男子直系相続の道を開き、サウド王家(実質的にはサルマン家)の安定的な専制君主体制を維持することが最大の眼目であろう。傲岸不遜、独裁的として内外から警戒される MbS はむしろ emotional で pedantic と言われる AbS よりも現体制維持の目的に適っている。サルマンが MbS を支えるのは豊臣秀吉が晩年にうまれた秀頼に盲愛を注いだケースとは異なると考えられる。サウド家の権力闘争の中で権謀術策により国王の地位を勝ち取ったサルマンだからこそ MbS を皇太子に据えたはずである。そのような見方に立てば、エネルギー相は早晩 MbS と気脈を通じる同世代の石油テクノクラートが踏襲するであろう(あるいは MbS の実弟ハリド・ビン・サルマンの可能性もある)。いずれにしろ異母兄 AbS に勝ち目のないことは明らかである。

次に OPEC 及びロシアを含めた OPEC+の舵取り問題を見ると、現在原油価格は 60ドル/バレル強(ブレント)であり、一般的には OPEC+の生産性削減が奏功したためと考えられている。しかし OPEC 各国の生産量を見ると、実際には米国の禁輸措置によりイランの生産が極度に不振であり、あるいはベネズエラが米国の経済制裁と内政の混乱、リビア内戦のためなど、OPEC+の協定により生産が削減されているとは言い難いのである。実際イラクなどは増産しているほどであり、非 OPEC のロシアもコミットした削減をこれまで引き延ばしてきたのが事実である。世界の需給関係を見ると、米国のシェールオイル・ガスは増産されており、今や米国は世界の石油・天然ガスの生産国になっている(BP 統計による)。一方需要面では米中貿易摩擦により世界景気に後退の兆しが見え、今後石油価格は下落するとの予測が少なくない。このような環境下でサウジアラビアの指導力が問われているが、AbS にそのような力業を発揮できるのか若干疑問なしとしない。

石油と国際政治はこれまでも密接に絡みあっていたが、今やサウジアラビアは米国、ロシア、イランとの複雑な勢力関係を解きほぐしつつ、唯一の財源である石油収入の最大化を図るという難しい課題を背負っている。米国の軍事支援なしではイエメンをめぐるイランとの代理戦争に勝てないサウジアラビア。ロシアとは OPEC+で石油価格維持を目指しながら、米国に気兼ねしてロシアとの距離感に苦労するサウジアラビア。そして宗教国家イランを最大の脅威と見なし世俗王制維持に必死のサウジアラビア。サウジアラビアは産油国家としてロシア、イランと利害を共有する一方、米国の石油産業の動向に神経をとがらせている。軍事外交面ではサウジアラビアは米国に唯々諾々と従い、イエメンで泥沼にはまっている。そして地域問題で米国の方針に沿い、対イラン制裁の旗振り役を担っているが、シリアではロシアとイランが地歩を固めるなど守勢一方である。このようにサウジアラビアは米国、ロシア及びイラン各国と時に応じて手を結び、翻って手を上げる綱渡り外交を強いられている。

エネルギー相の AbS もこれらのジレンマ、トリレンマから無関係ではいられない。国際会議の席上で Pedantic な言動を弄するだけでは問題は解決せず、遅かれ早かれ馬脚を現す恐れがある。AbS がエネルギー相として君臨するのはさほど長期間とは思えない。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

Arehakazuya1@gmail.com

¹ Prince Abdulaziz bin Salman appointed Saudi Minister of Energy

2019/9/8 Saudi Gazette

<http://www.saudigazette.com.sa/article/576685/SAUDI-ARABIA/Prince-Abdulaziz-bin-Salman-appointed-Saudi-Minister-of-Energy>

² Saudi Prince Abdulaziz bin Salman's oil diplomacy makes mark at Opec+ meeting debut

2019/9/13 Gulf News

<https://gulfnews.com/business/energy/saudi-prince-abdulaziz-bin-salmans-oil-diplomacy-makes-mark-at-opec-meeting-debut-1.66398765>

³ Oil output deal is here to stay, new Saudi minister vows

2019/9/9 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1551986/saudi-arabia>

⁴ Saudi energy minister says oil output to be fully restored by end of the month

2019/9/17 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1555711/saudi-arabia>